

1. 科目名 (単位数)	東アジアの中の日本文化 (2単位)		3. 科目番号	EIJP2381
2. 授業担当教員	越野 香子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	国際教育コース2年選択・必修科目			
7. 講義概要	<p>従来、日本の文化はアメリカやヨーロッパと比較され、その差異に目を向けられることが多かった。一方、東アジア諸国と日本は、古くからの交流の歴史において、人々の移動やそれにもなう文化の影響など、相互的共通性を有しているものの、一様というわけではない。</p> <p>本講義では、中国や韓国を中心とした東アジア諸国と日本の文化について、比較したり文化的特徴を見出したりしていく。日本文化や日本人の文化的行動との共通性や類似性とともに、日本との関係性や欧米との対比では見過ごされてしまいがちな差異などについて扱っていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文化について、改めて考え理解を深めることができるようになる。 2. 東アジア諸国と日本の関係について理解することができるようになる。 3. 東アジアの文化について、共通性とともに差異性など多面的にとらえることができるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	本講義では、各自、与えられたテーマについての模擬授業を行うため、必要な資料の収集や調査過程で課題が与えられる。また随時、発表や感想文が課されるので、各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 高吉嬉・國分麻里・金球辰著『交流史から学ぶ東アジア：食・人・歴史でつくる教材と授業実践』明石書店、2018。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 (学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文化について、改めて考え理解を深めることができたか。 2. 東アジア諸国と日本の関係について理解することができたか。 3. 東アジアの文化について、共通性とともに差異性など多面的にとらえることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 総合点の 30%：積極的な参加、課題の提出状況などにより評価。 2. グループ・ワーク 総合点の 30%：共同作業での発言、役割貢献などにより評価。 3. 試験・レポート 総合点の 40%：基礎知識の理解、自身の意見の表出の程度により評価。 <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4 (4回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内、授業での積極的参加と発表の比重が大きいため、分からないことは積極的に質問し、ディスカッションにも意欲を持って臨むことを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならないことがあります。不正行為としては、<u>1. 捏造(ねつぞう)</u>、<u>2. 改ざん</u>、<u>3. 盗用</u>があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。 			
13. オフィスアワー	授業時に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義の趣旨と目的について	事前学習	シラバスを確認し、講義の内容について把握しておく。教科書 pp. 3~6 を読んでおく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第 2 回	第 I 部 食文化で広がる東アジア	事前学習	教科書 pp. 11~29 を読んでおく。世界三大食法である箸食文化と手食文化圏について調べておく。	
	第 1 章：箸の文化はどのように発展してきたか	事後学習	箸文化が東アジアの国々でどのように発展してきたかまとめる。	
第 3 回	「日中韓の箸について考えよう」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。	
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。	

第4回	第2章：あなたの街のカップ麺はなに味？	事前学習	教科書 pp. 30～44 を読んでおく。日本の代表的な昆布の原産地について調べておく。
		事後学習	東アジアにおける昆布の名称、伝播と交易について学んだことをまとめる。
第5回	「昆布と東アジア」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。
第6回	第II部 人々でつながる東アジア 第3章：江戸時代に漂流するとどうなるのか	事前学習	教科書 pp. 53～64 を読んでおく。江戸時代・朝鮮時代の日朝関係及び、江戸幕府による「海禁」政策について復習しておく。
		事後学習	東アジアにおける漂流民への対応が、相手国との関係を築く上で何を意味していたか考える。
第7回	「朝鮮漂流日記」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。
第8回	第4章：「境界人」旗田巍のアイデンティティは何であったか	事前学習	教科書 pp. 71～85 を読んでおく。日本社会における国籍（出身地）別外国人登録者数について調べておく。
		事後学習	旗田の例から、「人間とは何か」、「自分とは何者なのか」、「アイデンティティとは何か」について考える。
第9回	「アイデンティティの確立とそれが奪われるとき」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。
第10回	第III部 歴史から響き合う東アジア 第5章：自分の姓名が変えられたとき、人はどう感じるか	事前学習	教科書 pp. 94～104 を読んでおく。創氏改名と皇民化について復習しておく。
		事後学習	日本、朝鮮半島、台湾の姓名から家族制度の違いについて確認し、改姓名実施が及ぼしたアイデンティティ形成への影響について考える。
第11回	「日本・朝鮮・台湾の姓名と創氏改名」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。
第12回	第6章：東アジアの町は日本の歴史とどのような関係があるか	事前学習	教科書 pp. 109～125 を読んでおく。東アジアの近代史について復習しておく。
		事後学習	東アジアの都市にみられる日本の街並みとの類似性とその歴史的背景について顧みる。また今後、これらの都市が独自にどのように発展していくのか考えてみる。
第13回	「東アジアの町は日本の歴史とどのような関係があるか」模擬授業	事前学習	発表者は模擬授業の準備をし、それ以外の人は、学習指導案の内容を確認しておく。
		事後学習	模擬授業が「国際理解」の観点から効果的であったか顧み評価する。
第14回	模擬授業の振り返りと評価	事前学習	これまでの各テーマについての議論、意見交換を基に、東アジア内の調和と共同体はどのようにしたら可能なか意見交換の準備をしておく。
		事後学習	「東アジアの調和と共同体」のレポート作成に向けて執筆の準備を始める。
第15回	まとめ：東アジアの共通点と違いを理解したうえで、今後それぞれの国がどのように共に発展していけるか考える。	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。